



2020年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2019年11月7日
上場取引所 東

上場会社名 東邦化学工業株式会社
 コード番号 4409 URL https://toho-chem.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 中崎 龍雄
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役経理本部長 (氏名) 井上 豊 TEL 03-5550-3735
 四半期報告書提出予定日 2019年11月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第2四半期の連結業績（2019年4月1日～2019年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第2四半期	20,973	△5.7	944	△2.9	664	△15.7	572	15.2
2019年3月期第2四半期	22,234	4.2	972	△3.4	788	△11.9	496	△16.5

(注) 包括利益 2020年3月期第2四半期 371百万円 (△49.4%) 2019年3月期第2四半期 734百万円 (△7.1%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第2四半期	26.83	—
2019年3月期第2四半期	23.29	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第2四半期	51,290	13,202	25.6
2019年3月期	52,407	13,089	24.8

(参考) 自己資本 2020年3月期第2四半期 13,132百万円 2019年3月期 13,014百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	0.00	—	12.00	12.00
2020年3月期	—	0.00	—	—	—
2020年3月期（予想）	—	—	—	15.00	15.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2020年3月期の連結業績予想（2019年4月1日～2020年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	43,500	△4.0	2,300	4.5	1,950	2.9	1,500	△21.4	70.33

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年3月期2Q	21,350,000株	2019年3月期	21,350,000株
② 期末自己株式数	2020年3月期2Q	21,990株	2019年3月期	21,945株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2020年3月期2Q	21,328,036株	2019年3月期2Q	21,328,055株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における我が国経済は、個人消費や企業の設備投資は堅調に推移しているものの、外需の低迷などを背景に製造業の生産活動には足踏みがみられ、景気の停滞感が強まっています。今後も、米中通商問題の長期化の影響や、英国のEU離脱問題、中東情勢の緊迫化等、引き続き不透明な環境が続くことが予想されます。

化学業界におきましても、海外経済の減速により全般的に需要の鈍化がみられる一方、米国で新增設されたプラントからのシェールガス由来の化学製品の生産が本格化していることから、世界的な需給が緩和し、国際市況は低迷傾向にあります。

このような経営環境下、当社グループの当第2四半期連結累計期間の売上高は、製品需要が総じて弱含みで推移したことや、原材料価格の低下に伴う売価の低下、中国の景気減速の影響が重なり、前年同期比1,260百万円、5.7%減収の20,973百万円となりました。

利益面は、減収の影響を原材料価格の低下でカバーしたものの、減価償却費や人件費等の固定費負担の増加を補うには至らず、当第2四半期連結累計期間の営業利益は、前年同期比27百万円減益の944百万円、経常利益は、為替差損の影響等により減益幅が更に拡大し、前年同期比123百万円減益の664百万円となりました。一方、親会社株主に帰属する四半期純利益は、非連結子会社の旭東産業(株)を清算したことによる子会社清算益の計上により、前年同期比75百万円増益の572百万円となりました。

セグメント別の状況は次のとおりです。

(界面活性剤)

香粧原料は、洗剤向けの一般洗浄剤の落ち込みを主因に減収となりました。プラスチック用添加剤は、主力の帯電防止剤や乳化重合剤等が振るわず減収となりました。土木建築用薬剤は、建材関連等が振るわず若干の減収となりました。一方、農薬助剤は、海外向け販売が回復し増収に転じ、繊維助剤は中国市場での販売が引き続き好調で増収となりました。紙パルプ用薬剤は、サイズ剤等の増加で若干ながら増収となりました。

その結果、当セグメント全体の売上高は、前年同期比338百万円、2.8%減収の11,748百万円となり、セグメント利益は、減収の影響を原材料価格の低下による利益率の改善でカバーした形で、前年同期比42百万円増益の689百万円となりました。

(樹脂)

石油樹脂は、大口ユーザー向けの販売が伸長し増収となりました。合成樹脂は、冷蔵機器用の断熱フォーム用ウレタン原液等が振るわず減収となりました。樹脂エマルションは、金属表面処理剤の落ち込みを主因に減収となりました。

その結果、当セグメント全体の売上高は、前年同期比54百万円、3.8%減収の1,389百万円となり、セグメント損失は、3百万円(前年同期は39百万円の損失)となりました。

(化成品)

合成ゴム・ABS樹脂用ロジン系乳化重合剤は、数量は増加したものの原材料価格低下に伴う売価下落の影響から減収となりました。金属加工油剤は、大口ユーザー向け販売が大幅に落ち込み減収となりました。石油添加剤は、海外向け販売が振るわず減収となりました。

その結果、当セグメント全体の売上高は、前年同期比375百万円、12.4%減収の2,653百万円となり、セグメント利益は、前年同期比9百万円減益の74百万円となりました。

(スペシャリティケミカル)

溶剤は、各用途とも総じて低調で減収となりました。電子情報産業用の微細加工用樹脂は、半導体関連向け需要は底堅いものの、第1四半期の当社工場の定期修理の影響による出荷の出遅れ等が響き減収となりました。アクリレートは、昨年後半から中国市場で需要が落ち込み、大幅な減収となりました。

その結果、当セグメント全体の売上高は、前年同期比476百万円、8.5%減収の5,142百万円となり、セグメント利益は、国内外の原材料価格の低下による利益率の改善が寄与し、前年同期比37百万円増益の177百万円となりました。

なお、上記の各セグメント利益又は損失の前年同期比の数値は、後記P. 9 (セグメント情報) 「報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報」の表における「報告セグメント」の比較情報です。

その他に、各セグメントに帰属しない調整額(棚卸資産の調整額等)が12百万円(前年同期は130百万円)あります。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、51,290百万円と前期末比1,116百万円の減少となりました。その内訳は、流動資産が1,719百万円減少の28,887百万円、固定資産が603百万円増加の22,402百万円です。

流動資産の主な増減要因は、現金及び預金が103百万円の減少、受取手形及び売掛金が1,337百万円の減少、還付法人税等の減少を主因とするその他(流動資産)が312百万円の減少です。

固定資産の主な増減要因は、有形固定資産が661百万円の増加、無形固定資産が151百万円の増加、投資その他の資産が209百万円の減少です。

一方、負債合計は38,087百万円と前期末比1,230百万円の減少となりました。主な増減要因は、支払手形及び買掛金が1,908百万円の減少、短期借入金302百万円の減少、未払法人税等が126百万円の増加、設備関係支払手形の減少及び未払費用の減少を主因とするその他(流動負債)が860百万円の減少、長期借入金1,395百万円の増加、退職給付に係る負債が109百万円の増加、リース債務の増加を主因とするその他(固定負債)が209百万円の増加です。

純資産は、13,202百万円と前期末比113百万円の増加となりました。主な増減要因は、利益剰余金が、配当金の支払いと親会社株主に帰属する四半期純利益との差額の316百万円の増加、その他の包括利益累計額が198百万円の減少です。

その結果、自己資本比率は25.6%となりました。

(キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は7,965百万円となり、前連結会計年度末と比較して103百万円の減少となりました。

当第2四半期連結累計期間における「営業活動によるキャッシュ・フロー」は1,358百万円の収入(前年同期比728百万円の収入増)となりました。収入の主な要因は、税金等調整前四半期純利益775百万円、減価償却費942百万円、退職給付に係る負債の増加額125百万円、売上債権の減少額1,285百万円、為替差損134百万円、法人税等の還付額360百万円等であり、支出の主な要因は、子会社清算益128百万円、仕入債務の減少額1,876百万円等であります。

「投資活動によるキャッシュ・フロー」は1,982百万円の支出(前年同期比517百万円の支出増)となりました。収入の主な要因は、子会社の清算による収入137百万円等であり、支出の主な要因は、有形固定資産の取得による支出1,929百万円、無形固定資産の取得による支出191百万円等であります。

「財務活動によるキャッシュ・フロー」は584百万円の収入(前年同期は740百万円の支出)となりました。収入の主な要因は、長期借入金の純増額1,377百万円等であり、支出の主な要因は、短期借入金の純減額252百万円、リース債務の返済による支出276百万円、配当金の支払額255百万円等であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の連結業績予想につきましては、売上高は、前回予想を下回り、前期比減収となる見込みです。前回予想時には、上期は海外経済の減速やその国内景気への影響により前年同期比減収となるものの、下期には持ち直し、売上高は前年を上回ると予想しておりました。しかしながら、第2四半期の製品需要の動向を見ると、当面は厳しい環境が続くことが予想され、下期売上高は、電子材料分野を中心に上期比でかなりの増収を見込むものの、前年同期の水準を下回る見込みです。

一方、利益面は、売上高の下振れの影響に加えて、為替差損の発生により、前回予想を下回る見通しです。

その結果、2019年8月2日の「2020年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」において公表いたしました2020年3月期の通期連結業績予想を変更しております。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,264	8,161
受取手形及び売掛金	11,373	10,035
たな卸資産	9,965	10,000
その他	1,003	691
貸倒引当金	△0	△0
流動資産合計	30,607	28,887
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	8,036	7,982
機械装置及び運搬具(純額)	2,170	2,152
土地	3,145	3,145
建設仮勘定	1,405	1,892
その他(純額)	1,453	1,699
有形固定資産合計	16,211	16,872
無形固定資産	843	994
投資その他の資産	4,744	4,535
固定資産合計	21,799	22,402
資産合計	52,407	51,290

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	8,985	7,076
短期借入金	6,573	6,271
1年内償還予定の社債	300	—
未払法人税等	25	151
賞与引当金	494	495
その他	3,881	3,020
流動負債合計	20,260	17,015
固定負債		
社債	4,320	4,620
長期借入金	8,555	9,951
退職給付に係る負債	5,087	5,196
資産除去債務	62	63
その他	1,031	1,241
固定負債合計	19,057	21,072
負債合計	39,317	38,087
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,755	1,755
資本剰余金	896	896
利益剰余金	8,432	8,749
自己株式	△6	△6
株主資本合計	11,078	11,394
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,307	1,180
為替換算調整勘定	894	811
退職給付に係る調整累計額	△264	△254
その他の包括利益累計額合計	1,936	1,737
非支配株主持分	74	70
純資産合計	13,089	13,202
負債純資産合計	52,407	51,290

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
売上高	22,234	20,973
売上原価	18,681	17,387
売上総利益	3,552	3,585
販売費及び一般管理費	2,580	2,640
営業利益	972	944
営業外収益		
受取利息	1	2
受取配当金	36	38
物品売却益	21	21
その他	24	21
営業外収益合計	84	84
営業外費用		
支払利息	110	98
為替差損	109	178
損害賠償金	—	33
その他	49	54
営業外費用合計	268	364
経常利益	788	664
特別利益		
投資有価証券売却益	—	2
子会社清算益	—	128
特別利益合計	—	130
特別損失		
固定資産廃棄損	21	19
特別損失合計	21	19
税金等調整前四半期純利益	767	775
法人税等	269	202
四半期純利益	497	572
非支配株主に帰属する四半期純利益	0	0
親会社株主に帰属する四半期純利益	496	572

(四半期連結包括利益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
四半期純利益	497	572
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	339	△126
為替換算調整勘定	△110	△84
退職給付に係る調整額	8	10
その他の包括利益合計	237	△200
四半期包括利益	734	371
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	736	373
非支配株主に係る四半期包括利益	△1	△2

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	767	775
減価償却費	939	942
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△0	△0
賞与引当金の増減額 (△は減少)	4	1
厚生年金基金解散損失引当金の増減額 (△は減少)	△457	—
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	134	125
受取利息及び受取配当金	△38	△41
支払利息	110	98
為替差損益 (△は益)	83	134
投資有価証券売却損益 (△は益)	—	△2
子会社清算損益 (△は益)	—	△128
固定資産廃棄損	21	19
売上債権の増減額 (△は増加)	△561	1,285
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△183	△79
仕入債務の増減額 (△は減少)	△34	△1,876
その他	468	△150
小計	1,254	1,104
利息及び配当金の受取額	38	41
利息の支払額	△122	△147
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△539	360
営業活動によるキャッシュ・フロー	630	1,358
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△1,395	△1,929
無形固定資産の取得による支出	△50	△191
投資有価証券の取得による支出	△4	△4
投資有価証券の売却による収入	—	18
子会社の清算による収入	—	137
その他	△13	△12
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,464	△1,982
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△725	△252
長期借入れによる収入	2,200	3,250
長期借入金の返済による支出	△1,792	△1,872
社債の発行による収入	293	293
社債の償還による支出	△300	△300
リース債務の返済による支出	△202	△276
配当金の支払額	△213	△255
非支配株主への配当金の支払額	—	△1
その他	—	△0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△740	584
現金及び現金同等物に係る換算差額	△58	△64
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△1,632	△103
現金及び現金同等物の期首残高	8,789	8,068
現金及び現金同等物の四半期末残高	7,156	7,965

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

I 前第2四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注) 3
	界面 活性剤	樹脂	化成品	スペシャ リティー ケミカル	計				
売上高									
外部顧客への 売上高	12,087	1,443	3,028	5,618	22,178	55	22,234	—	22,234
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	107	107	△107	—
計	12,087	1,443	3,028	5,618	22,178	163	22,341	△107	22,234
セグメント利益 又は損失(△)	646	△39	84	140	832	9	842	130	972

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、環境調査測定・分析及び物流倉庫業務等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額130百万円には、棚卸資産の調整額121百万円等が含まれております。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書計上額の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注) 3
	界面 活性剤	樹脂	化成品	スペシャ リティー ケミカル	計				
売上高									
外部顧客への 売上高	11,748	1,389	2,653	5,142	20,933	39	20,973	—	20,973
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	102	102	△102	—
計	11,748	1,389	2,653	5,142	20,933	142	21,076	△102	20,973
セグメント利益 又は損失(△)	689	△3	74	177	938	△5	932	12	944

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、環境調査測定・分析及び物流倉庫業務等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額12百万円には、棚卸資産の調整額△10百万円等が含まれております。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書計上額の営業利益と調整を行っております。